

本を選ぶ

NO.485 2025年(令和7年)10月20日

●発行／ライブラリー・アド・サービス

<https://www.las2005.com>

本社 〒114-0002 東京都北区王子 4-23-4 TEL=03-6908-4643

●<ろん・ぼわん>数の問題ではないけれど

●選書の法則：S. R. ランガナタンからの
187のメッセージ(31)



数の問題ではないけれど

朝日新聞の紙面ビューアーの無料版は、デジタル版の新聞とは違って毎朝届く新聞と全く同じレイアウトのままスマートフォンやPCで閲覧できるサービスだ。過去2ヶ月分が閲覧可能で地域版も閲覧できる。紙面を自由に拡大可能なものがある。だが、記事の音声読み上げ機能を期待していたが、無料の紙面ビューアーにはない機能だった。もちろん毎月プラス500円のデジタル版ならその他の便利な機能とともに使える。読売や毎日も似たような使い勝手のようだ。

さて新聞紙面トップに大きく踊ったのが今年のノーベル賞を日本人2人受賞の記事。受賞者総数はこれで31人になるという。

中国や韓国が今年もうらやましそうだ。韓国はキム・デジュン元大統領(平和賞)、2024年に文学賞を受賞したハン・ガンの2人。話題になったのは『ギリシャ語の時間』／ハン・ガン 著／斎藤真理子 訳／晶文社／2017年。「ある日突然言葉を話せなくなった女は、失われた言葉を取り戻すために古典ギリシャ語を習い始める。ギリシャ語講師の男は次第に視力を失っていく。ふたりの出会いと対話を通じて、人間が失った本質とは何かを問いかけていく」(晶文社のサイトから)

一方、中国ではこのところ受賞者はいないが、2015年に中国人として唯一生理学・医学賞を屠呦呦(トゥ・ヨウヨウ)博士が受賞した。1930年生まれ。政府からの要請で世界三大感染症といわれるマラリアの特効薬の開発に挑んだ。長年に及ぶ研究から、解熱剤である古典薬の青蒿(セイコウ／キク科ヨモギ属の植物／*Artemisia annua*)に着目し、青蒿から分離されたアーテミシニンをマラリアの治療薬として開発した。その後、マラリア特効薬として世界中で使用され、多くの命を救っている。さらにアーテミシニンに抗がん作用が認められるとの研究が多くの論文で明らかにされているという。

だが、受賞者数だけで「日本人」はすごいとばかり言っていると(思っていると)、近い将来、中国に追いつかれるのは目に見えている。科学雑誌に掲載されている中国人研究者の論文数はもはやアメリカを相当数超えているのが現実だ。研究費が多いのは当然として研究者の母数が圧倒的に多いのだから当たり前の話になる。「日本人」はすごい、というのは早晩消えていくに違いない。

ノーベル賞受賞者の記者会見をテレビで見ていると違和感が募った。たまたま一人の受賞者が夫婦で研究生活を共にしたという事情からか、記者たちの好奇に満ちた質問が配偶者に偏っていた。一方で、受賞者本人に対して研究テーマである制御性T細胞の詳細を引き出そうとする記者は少数で、配偶者への個人的な質問が繰り返されるといういかにも日本人的な展開だったからだ。(埜村太郎)

選書の法則： S. R. ランガナタンからの 187 のメッセージ (31)

吉植 庄栄

3 1. 五つの法則の内戦・下

『図書館選書論第2版』の内容を、ランガナタンがよく使った架空の対談方式で紹介している。今回は前々回から続く法則達の内輪もめについて。構想では全3回のところ、超えて全4回の最終回。ランガナタン先生の科学に対する熱い思いを読めるのは本誌『本を選ぶ』だけ！

【登場人物】

○ランガナタン:図書館界のビッグスター、S. R. ランガナタン (1892-1972) 先生。内輪もめの仲裁役を担当中。

○第一法則くん～第五法則くん:ランガナタンの著作『図書館学の五法則』に出てくる各法則。全員集合して、各々の主張の妥協点の検証中！

○第六軍団くん:ランガナタン先生が紛争解決のために呼び寄せた最後の刺客。通称「科学的方法の螺旋」。全法則を螺旋に取り込み、その先にあるものは？

ランガナタン (以下「ラ」): 第一法則くんから第五法則くんまでの主張の対立に対し、共通の敵を差し向けてきて今回で3回目、これまで第一軍団から第五軍団の攻撃により和解を促している。

第一法則くん (以下「一」): 前回は第四軍団「図書館の組織化」くんの攻撃で、図書館の分担収集を迫られました。

第二法則くん (以下「二」): おまけに終わったと思った第二軍団「図書館の予算」くんまで連合して攻めてきて、我々は更に追いつめられることになりましたね。

ラ: 2 個軍団に攻められて、各法則くん達も閉口しただろ。

第三法則くん (以下「三」): 各図書館の選書に役割を持たされるのは、ちょっと世知辛く思いました。ですが第二軍団くんに予算カットという兵糧攻めを浴びせられると、共同購入の精神はベストではないけどベターな選択肢と思いました。

ラ: そうだな。どこの図書館も金太郎飴のように同じ本ばかりでは平等の観点では理想かもしれない

いが、特色あるコレクションの方が図書館ごとの個性も際立つのである。

第四法則くん (以下「四」): それにしても第四軍団の野郎ったら甲高い声でまくしたてやがって、耳がきんきんしたぜ。

ラ: ちょっと特徴的なパーソナリティだったかもな。まあ、その結果皆も言う事聞こうという気になっただろう？

第五法則くん (以下「五」): ですね。そして次に第五軍団「社会的価値」くんが攻めてきました。

一: 図書館の存在意義は社会をより良くする組織だということをベースに考えて、資料選びには選択と集中をしろという勧告でしたね。

二: その結果、レベルが低い資料は除外するほか、テレビ・ラジオ・インターネットといった別のメディアから得ることができるものは、そちらに任せてしまえという勧告もありました。

ラ: そうだ。図書館は社会的な存在である。社会での存在意義を基準に考え、蔵書によって社会を良くすることが基本的な役割であること、そして社会を構成する別の一翼が担っているものは、図書館がしゃしゃり出ないということだ。

二: 私の主張だと、利用者さんの要求を最大限に尊重！と考えていましたが、その結果、第一法則くんと言い争いになってしまいました。

一: そうだね。第五軍団くんの考えは非常に納得なのですが、一方、「社会に良い」が偏って強められると、選書が検閲になってしまい良くないですよ。ですので「社会にとって良いこととは何か？」というのは注意が必要とその時も強く感じました。

ラ: そうだったな。そこでだ、今日はいよいよこのディスカッションの最終回だ。では「良い」って何なのだろう？それについて第六軍団を呼び寄せて皆に考えてもらい、そこで和解と共通見解を見出そう！

一～五：はい！

○第六の刺客「科学的方法」軍団

ラ：それでは第六軍団くん、よろしく頼むー！

第六軍：はああーい。ではいっきまーーす！

ぐるぐるぐるぐるううううっ！（図1）

一：なんか・・・渦巻いてますね！？

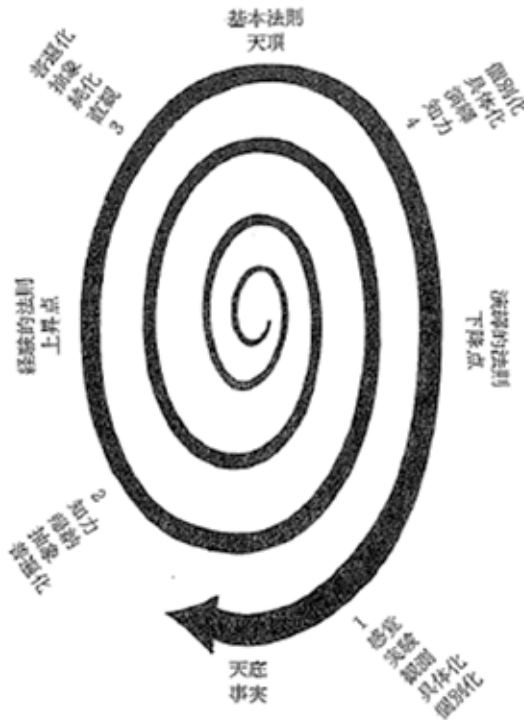


図1 科学的方法の螺旋

S.R. ランガナタン著；渡辺信一，深井耀子，渋谷義行共訳。
図書館学の五法則。日本図書館協会，1981，p.338.

二：それも時計回りに外に吹き出してますねー
ー！？

ラ：おお！よく来てくれた！僕の秘蔵っ子をついに投入だ！

四：なんだこいつ！？ついに図で登場かよ。それもまるで台風ちゃんか！？いくら今、シーズンだからって、師匠、冗談は休み休みをお願いしたいっの。

第六軍：冗談ではないですうううううっ！？ぐるぐるぐるぐるううううっ！

三：うわっ！ちょっ！吹き飛ばされる〜〜う！

五：でも内側から外側に広がっていて成長してる感がありますね！？僕は好きになれそう！

ラ：でだ、第六軍団くんの主張は僕が代弁しよう。

四：おっと！ついに真打・・・ってカラスボス登場すかっ！？

一：そんな！先生を悪役みたいに言ってはダメです！では先生、よろしくお願いします。

ラ：うむ。最初に、結論を言っておこう。第一法則くんから第五法則くんの言い合いを取り上げてきたが、各法則の対立については、皆の立場を更に掘り下げて行って1つの底、山であれば山頂に至ったところで俯瞰して見て考えるのだ。そうすればおのずと答えは1つになるのだ！

二：つまり我々5つの法則ですが、より根本を極めると最終的には1つになるってことですか？

ラ：簡単に言ってしまうとその通りだ。各法則間の対立も1つの究極の真理に還元してしまえば、対立も無くなるのだ。

五：是非教えてください！この広がって行くところなんか特に聞きたいです！

ラ：うむ。

○第六軍団「科学的方法」軍団くんって何者なの？

ラ：そもそもだがな、この「科学的方法の螺旋」は、僕が『図書館学の五法則』の第2版を1957年に出版した時に加筆した部分に掲載したのだ。

一：どんな背景で加筆されたのですか？

ラ：それはだな、僕がこの『図書館学の五法則』を1931年に刊行後、このタイトルの「図書館学 (Library Science)」に難癖付けた奴が居るのじゃ。

二：そりゃまた、どんな文句だったのですか？

ラ：できるだけ簡単に言えば、「図書館学って科学なんですか？それってあなたの感想ですよ〜」って。

五：ふえー、またそんなことを何故言われたのでしょうか？

ラ：そういう連中はだな、基本的に自然科学分野の研究者じゃよ。連中の考える「科学」とはだな、仮説を立てて実験をしてその実験結果を考察するものという固定観念がある。研究対象も、物質や生命の起こす現象のみって思いこんでいる。

四：まあ、そりゃそうだって感じでさーな。

ラ：だったら人間の現象の研究は科学ではないのか？人文科学や社会科学はどうなる？文学や教育学で必ず実験をしないとイケないのか？

四：そいつは一・・・おっしゃる通りでさあ。

ラ：そこで僕は考えた。僕も元は数学教師であり、自然科学のことはよく分かる。ではなんだ？実験をしない数学は科学ではないのか？先も言ったが文学や歴史といった人文科学、法学や経済学といった社会科学は科学ではないのだろうか？そんなことはない。

四：んで、20年以上かけてどうなったんでさ？

ラ：僕はこのように考えた。実験は様々な結果が出るだろう。その結果を基に立てた仮説が合っているか、外れているのかを考える。この実験に当たるものが人文・社会科学では原典の読解、現物の観察や先行研究、フィールドワークといった調査であるのだ。これらを細かく分析し総合的に全体を理解して、それを基に研究を積み重ねるのだ。

一：で、この螺旋にはどの辺にその思いが込められているんですか？

ラ：そうだ。では説明に入るが、この図1では皆には分かりづらいよな？

四：へい、なんか「直感」とか「演繹的法則」とかって、ちと哲学っぽくて難しいぜ。

ラ：うむ。そこでだ、筆者さんがこの図を分かりやすくしたものがこれだ（図2）。

四：3分クッキングかよ！？

二：筆者さん、図1を理解するのに10年かかったらしく、その上で分かりやすい図にいわば「翻訳」して、高校生や大学生に教えているんだそうです。

ラ：らしいな。では、まずは(1)情報・文献探索だ。自然科学では実験や観察の部分だな。さっき

言ったように人文・社会ではここが先行研究とかフィールドワーク等による情報収集となる。次に(2)読解・記録・整理では知力を働かせて、情報

を解読し整理する。(3)検討と煩悶では、(2)で整理した情報を吟味して直感的に何が言えるのかを

考える。例えば、法則性や共通性、あるいは差異だな。これらに気づくまでが大変で「煩悶」する

ことになる。で、何かしらの法則や規則をひらめきから発見するのが(4)発見だ。ここで見つけた

法則や規則を現実には当てはめ、本当に合っているか検証する。これが(5)検証の過程で、ここで検

証結果がOKならその成果を学会や論文で発表するのだ。しかし検証した結果、現実には適合できない場合、更に研究を深めるため(1)に戻るのだな。

五：とても分かりやすかったです、図1の螺旋は外に広がって行ってますよね？これは図2には無いんですが？？私は成長するという視点でとても気に入ります！

ラ：良いことを指摘してくれた。図2は筆者さんが研究のサイクルの一回転にこだわったので、拡大の雰囲気

をうまく再現できなかったらしい。し

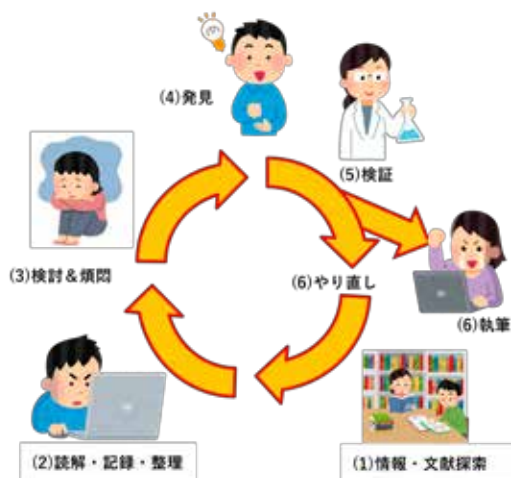


図2 科学的方法の螺旋（分かりやすく表現）

かし図1が外側に広がっているのは、この科学研究が拡大して更に発展していくことを示している。
五：やはりそうなんですね！それは、わくわくです！！

○図書館の研究って大変なの？

ラ：でだな、図書館の研究とは社会科学に入るのだ。図書館とは社会の組織だよな。

三：はい、ですので図書館（情報）学は社会科学の一分野になるのですよね？

ラ：そうだ。日本十進分類法（NDC）では0番台の総記になるが、そもそも社会教育の組織であるので、本来の意味では教育学370番台の範疇だ。

一：で先生は、図書館の研究って大変だとおっしゃっていますよね。

ラ：そうなのだ。そもそも社会現象の研究というのが非常に困難だ。何故なら、自然科学のように「こうすれば必ずこうなる」というのが無く、まさに混沌としているからだ。

二：人の行動も、気分で色々変わりますよね。

ラ：その通り。おまけに社会の研究の場合は「価値」という観点が入り、それによって人や社会の動きが変わってくる。

四：んちゃあ、研究なんかできんのですか？師匠！？

ラ：うむ、その通りだ。とても自然科学のようには行えない。おまけに実験も難しいだろ？ではどうしたら良いのだろうか？

三：うーん、思いつきませんね。先生には腹案があるんですよね？

ラ：そうだ。統計学を使って分析を進めるのだ。例えば無作為抽出法とかだな。

四：するってえと、いろんなデータを取ってですねえ、そいつをぱぱっと分析すれば良いってことですかい？

ラ：まあ、簡単に言えばそういうことだな。おまけに現代では統計学の手法も非常に高度化しており、社会の分析に大きな効果を発揮している。

二：なるほどー。なので図書館もその統計学的視点で研究すると、真実の側面が見えてくると！？

ラ：その通りだ。統計学の視点で、第六軍団「科学的方法」くんの螺旋図に従って図書館を調査研

究するのだ。そうすれば、真の姿が見えてくる。

○では各法則くんの対立をどうやって解消するの？

四：で師匠、随分迂遠な話においらには聞こえるけど、結局俺らの言い争いは、いって一ゼンて一どうなるんだい？

ラ：なので繰り返すが、図書館の統計を取り、そのデータを基に科学的方法の螺旋にのっとって深めるのだ。各法則くん達が言っている主張は、それぞれ正しい。しかしその主張がぶつかる場合、この研究方法で検証し、1つの正しいものを見つけて両者の言い分を昇華させるんだな。

一：なるほどー！やっとわかったぞ。

二：先生がおっしゃったように、我々の主張の更に根底にある真理を、この第六軍団くんと統計学を手がかりに探し当て、我々の主張を超えた1つの正しい答に進ませるんですね！

ラ：おおお！その通り！うまく説明できて良かったぞ。

○ついにこの章も終わりだよ

五：我々の内戦とそれに対する第1から第6までの刺客の皆さんとの話もいよいよここまでですね。

四：最初、いつものように3回って計画だったのに、喧嘩が長引いたり、第6軍団くんが壮大過ぎて拡大版になっちった。

五：まあ良いではないですか。回数も成長する！？

ラ：皆の者、お疲れ様だった。さて、長くやってきたこの『図書館選書論』第2版の重要部分の解説は今回で終わりだな。

四：ん！？意外にあっさりな大団円でやんの！？

一：先生もお疲れ様です。今後はどうされるおつもりですか？

ラ：うむ。残った問題とかの紹介とか、あとは最初の方で端折った内容とかを回顧していこうかの。最初の方のこの連載、筆者さんがまだ無名だったので、毎回の割り当てが少なく、内容を非常に省略したんだそうだ。ということで、皆の衆！また声をかけるので引き続きよろしくな！

一～五：はい！

（よしうえ　しょうえい：東北学院大学文学部）

サイディヤ・ハートマン／榎本 空 訳／
ハーン小路恭子 翻訳協力・解説

奔放な生、うつくしい実験

まつろわぬ黒い女たち、クィアでラディ
カルなものたちの親密な歴史 3960円

佐藤岳詩

20世紀のオックス フォードでメタ倫理 学はいかに発展した か 上・下



『メタ倫理学入門』の姉妹篇がついに登場！ 文脈や背景
を補いながら理論の興亡を追う。 3520円/2970円



勁草書房

TEL 03-3814-6861 *価格税込
FAX 03-3814-6854

〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 <https://www.keisoshobo.co.jp>

描かれた
蝦夷地・北海道
イメージの500年
「地図で読む
日本北辺史」
濱口裕介 著

エゾの世界と日本が出合っで以降、時代ごとの
世界観が、多様な地図に描かれてつづけていた。
常に境界が動き続けてきた北辺地域をめぐる、

「日本の国土象の変遷」を探る！

描かれた
蝦夷地・北海道
イメージの500年
「地図で読む
日本北辺史」
濱口裕介 著

北海道は、
本州からみて
北？東？

●定価2,200円(本体2,000円+税10%)



山川出版社

〒101-0047 東京都千代田区千代田 1-13-13

TEL 03-3293-8131 FAX 03-3292-6469 <https://www.yamakawa.co.jp/>

神田神保町古書店街と組合組織

戦時統制下における役割の変遷を中心に

渡辺達朗・山崎万緒 著

神田神保町古書店街の発展に関して、戦前・戦中期
における組合組織に着目し、古書店主がどのように
考えて行動し、当局による統制に対応したのか、総
合的な視点から捉えていく。資料を発掘し、関係者
にインタビューを行いながらまとめあげる力作。A5判 定価4,950円

Why not?! 財政学

超入門からホットイシューまで

江成 穰・倉地真太郎・佐藤一光・藤原 遥 著

教育、年金、医療など日々の生活と財政とのつなが
りを動画とともにゼロから学べる財政学の超入門書。
1章10ページで読みやすく、かつ体系的に学べます。
社会の写し鏡としての財政を自分のこととして捉え、
考える力を養います。

y-knot 四六判 定価2,310円



有斐閣

東京都千代田区神田神保町2-17
<https://www.yuhikaku.co.jp/>

価格は
税込

理論とデータを融合した、構造推定の力を感じよう！

実証ビジネス・ エコノミクス

12月上旬刊

●予価2860円(税込)
978-4-535-54081-1

上武康亮・遠山祐太・若森直樹・渡辺安虎 [著]

価格設定、新商品の導入、新規事業への参入など、ビジネスの現場でも
活躍する実証手法＝構造推定を、事例とともに実践的に解説！

やさしくまなぶ

吉永正彦 [著]

超平面配置

数学セミナーライブラリー
組合せ論とトポロジーの
交わるどころ

魅力的で深遠な超平面配置の理論を、素朴な具体例からはじめて
やさしく解説！ ●予価2860円(税込) ISBN 978-4-535-79038-4 ●11月上旬刊



日本評論社

〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4
☎ 03-3987-8621 <https://www.nippon.co.jp>

「初代おむすびまんが語る、
美味しかったですよ」のある暮らし

優た
いかな
食卓
の
やなせ

アンパンマンの父やなせたかしの
知られざる「食」の記憶

RoseLove (柳志乃) 著 1980円

晶文社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-11
Tel 03-3518-4940 <https://www.shobunsha.co.jp/>

ESTRELA

■2025年10月号

No.379/10月10日発行

B5判 64ページ

定価1,205円(税込)

〔特集〕情報・データの意義と法的保護

■情報(データ)の法的保護／

高瀬 亜富 (弁護士法人内田・鮫島法律事務所 パートナー弁護士)

■情報とデータの意義と帰属：データの価値、下から見るか？ 横から見るか？／

橘 雄介 (福岡工業大学 社会環境学部 准教授)

森下 壮一郎 ((株)サイバーエージェント 学際的情報科学センター リサー
チャー)

■統計情報を基に作成した図表の著作物性／

鈴木 康平 (人間文化研究機構 特任准教授)

公益財団法人 統計情報研究開発センター(Sinfonica)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル 5階

TEL : 03-3234-7471 <https://www.sinfonica.or.jp/>